

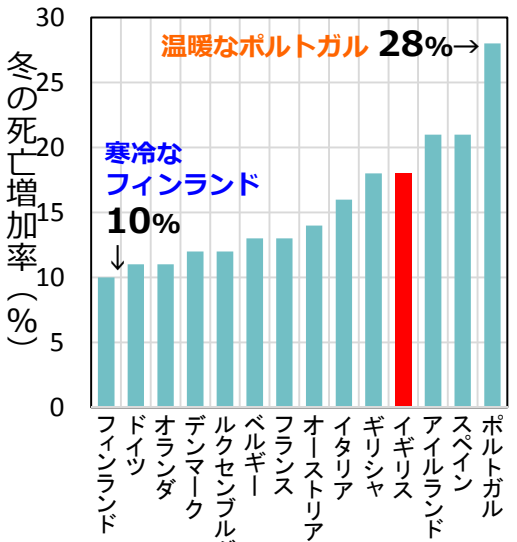
背景 断熱性能が良い住宅が普及している地域で冬季死亡率が少ない傾向（欧州、日本）

・欧州における冬季の死亡増加率はフィンランドなどの寒冷な国では10%であるのに対してポルトガル、イギリス、イタリアなど比較的温暖な国では20%前後となっており、断熱性能が良い省エネ住宅の普及が遅れ、冬季室温が低い住宅が多いことが原因とされている。

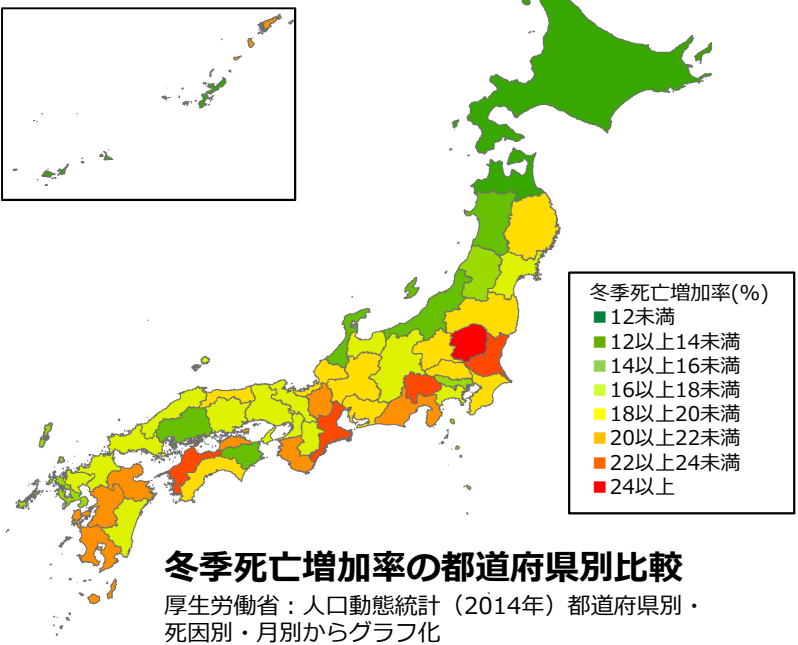
・18℃未満で血圧上昇・循環器疾患の恐れがあり、16℃未満で呼吸器系疾患への抵抗力が低下するとして、英国では冬季の住宅内許容室温を18℃と定めている※。

・日本についても欧州と同様の傾向が認められ、断熱性能の良い省エネ住宅が普及している北海道などの冬季死亡増加率が少なくなっている。

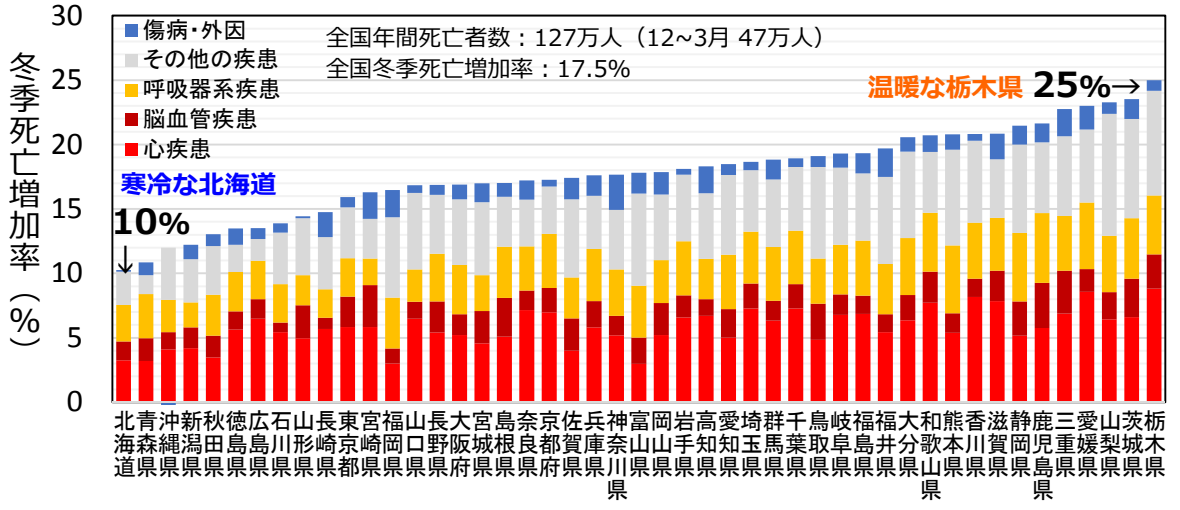
※英国保健省イングランド公衆衛生庁：イングランド防寒計画2015.10



冬季死亡増加率の欧州各国比較
英国保健省年次報告書（2010.3）

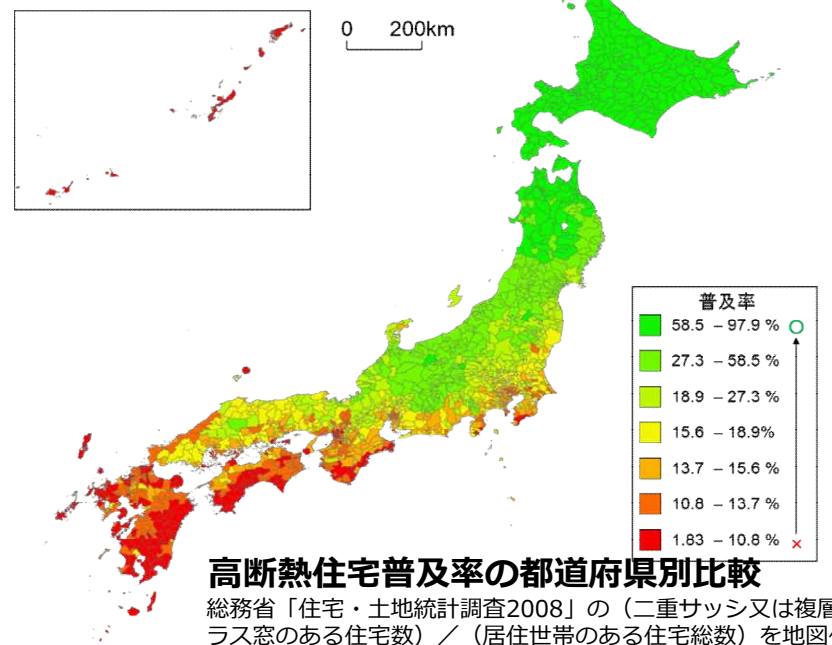


冬季死亡増加率の都道府県別比較
厚生労働省：人口動態統計（2014年）都道府県別・死因別・月別からグラフ化



冬季死亡増加率の都道府県別比較（死因内訳）

厚生労働省：人口動態統計（2014年）都道府県別・死因別・月別からグラフ化



高断熱住宅普及率の都道府県別比較

総務省「住宅・土地統計調査2008」の（二重サッシ又は複層ガラス窓のある住宅数） / （居住世帯のある住宅総数）を地図化